

(2) 総合教育部（理系）学生対象

主に、専門教育科目に関する案内です。【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています（【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択）。共通教育科目の卒業要件及びその他詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

記号の説明

【共】…共通教育科目 【専】…専門教育科目 【教】…教育の基礎的理解に関する科目等

融合学域

1 年次履修可能な専門教育科目 1 年次配当の科目

履修が望ましい科目等

- ・基礎科目及び初習言語科目は、学類の修得すべき単位数及び条件を確認の上、履修してください。
- ・1 年次配当の専門教育科目は総合教育部（文系及び理系）学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、アントレプレナー基礎【必】、イノベーション基礎【必】（学域GS科目）、数理・データサイエンス基礎及び演習【必】（学域GS科目）、デザイン思考【必】（学域GS科目）、デザイン思考演習【必】（先導学類のみ）の履修を勧めます。
- ・これらの専門教育科目の履修人数を制限する場合があります。
- ・これらの専門教育科目はすべて2 年次でも履修できます。

理工学域

1 年次履修可能な専門教育科目 1 年次配当の科目

1 年次に修得が望ましい専門教育科目 アントレプレナーシップ論【必】（物質化学類は2 年次履修）

数物科学類

履修が望ましい科目等

- ・1 年次配当の専門教育科目は総合教育部（理系）学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、【専】数学物理学基礎演習 A【選必】、【専】数学物理学基礎演習 B【選必】、【専】情報・計算科学基礎【選必】（3 科目すべて学域GS科目）の履修を勧めます。
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- ・次の科目は2 年次以降の専門教育科目履修との兼ね合いから、可能であれば1 年次に履修しておくことを勧めます。

教員免許を取得希望の場合→【教】教師論

中学校理科の教員免許を取得希望の場合→【共】化学実験

情報の教員免許を取得希望の場合→【専】情報・計算科学基礎【選必】（学域GS科目）、【専】計算科学【選必】

物質化学類

履修が望ましい科目等

- ・1 年次配当の学域GS科目（学域俯瞰科目）を1 単位分履修することを強く推奨します。
- ・【専】物理化学基礎 A【必】、【専】物理化学基礎 B【必】、【専】有機化学基礎 A【必】、【専】有機化学基礎 B【必】
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- ・教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法施行規則第66条の6 に定める科目（『共通教育科目履修案内』参照）と【教】教師論及び【共】化学実験（学類の必修科目）を1 年次に履修することを強く推奨します。2 年次4 月上旬に教職ガイダンスを改めて実施します。

機械工学類

履修が望ましい科目等

- ・【専】微分方程式及び演習（時間割番号20301.005）【選】（Q3、Q4 火曜2 限）、【専】機械工学概論 A【選必】（学域GS科目、Q3 火曜5 限）、【専】機械工学概論 B【選必】（学域GS科目、Q4 火曜5 限）

- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

フロンティア工学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習（時間割番号20301.005）【選必】（Q3、Q4火曜2限）、**専**フロンティア工学概論A【選必】（学域GS科目、Q3木曜5限）、**専**フロンティア工学概論B【選必】（学域GS科目、Q4木曜5限）
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

電子情報通信学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習（時間割番号20301.005）【選】（Q3、Q4火曜2限）、**専**電子情報通信先端テクノロジー概論【選必】（学域GS科目、Q3、Q4水曜5限）
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

地球社会基盤学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**微分方程式及び演習【選必基礎】は1年次後期の履修を勧めますが、2年次後期でも履修できるようにしています。コース配属後の時間割で確認してください。
- ・基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。**国**地学IA【必】、**国**地学IB【必】は、1年次前期の履修を勧めますが、2年次前期でも履修できるようにしています。コース配属後の時間割で確認してください。その他の必修科目は、1年次に単位修得しておかないと、2年次配当の必修科目等が取れず留年する可能性があります。
- ・教育職員免許状の「理科」の免許と「工業」の免許では、必要な科目が異なります。「理科」の教育職員免許状には**教**教師論が必要です。中学校1種免許状（理科）を取得する場合は、**国**物理学実験/**国**化学実験/**国**生物学実験が必要です。
- ・一級建築士受験資格を得るためには、建築学副専攻を修了する必要があります。

生命理工学類

履修が望ましい科目等

- ・**専**生命理工学概論A【選】、**専**生命理工学概論B【選】、**専**生物科学概論A【選必】、**専**生物科学概論B【選必】（生命理工学類の内容を理解する上で参考になりますので履修を薦めます。）
- ・GS科目「**国**細胞・分子生物学」を履修することを望みます。
- ・教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。生命理工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』及び『共通教育科目履修案内』に記載しています。中学校1種免許状（理科）を取得する場合は、**国**物理学実験、**国**化学実験及び**国**地学実験の修得が必要です。

[注] 1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先：
国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/学域学類の情報/>



医薬保健学域

1年次履修可能な専門教育科目 収容人数等の関係上、履修可能な専門教育科目はありません。

医学類

履修が望ましい科目等

- ・医学類を目指すならば、例えば、GS科目の「**国**細胞・分子生物学」を履修する等、生命科学を学ぶこと

を望みます。

- ・ 共通教育科目の履修は、移行点対象科目及びその他医学類で定める修得すべき共通教育科目のうち導入科目を含めて30単位以上の修得及び専門教育科目「**團**アカデミックスキル」「**團**プレゼン・ディベート論」を総合教育部1年次に修得してください。未履修や単位不足があると、医学類に移行した時点で、次年度、3年次に進級できないことが確定する場合があります。
- ・ 医学類では、2年次終了までに、共通教育科目34単位を修得しなければ、3年次の講義・実習を履修することができません。医学類専門教育科目は、学域GS言語科目Ⅲ、医学研究特設プログラム及び医師のためのリスクリングプログラムを除いて全科目が必修であるため、2年次で共通教育科目を履修できるのは水曜日の午前のみとなります。医学類の共通教育科目の修得要件である34単位は、1年次ではほぼ修得し終えることを強く望みます。

薬学類

履修が望ましい科目等

- ・ **団**統計数学A、**団**統計数学B
「**団**インテグレート科学（化学の世界）」、「**団**細胞・分子生物学」の履修を強く推奨し、「**団**統計学から未来を見る」の履修を推奨します。
- ・ **團**アカデミックスキル」「**團**プレゼン・ディベート論」以外の専門教育科目は、学類移行後の2年次から履修します。
- ・ 共通教育科目は可能な限り1年次に修得してください。導入科目及び「**團**アカデミックスキル」「**團**プレゼン・ディベート論」に未履修や単位不足があると2年次以降での修得が困難となる場合があります。

保健学類

履修が望ましい科目等

- ・ 本来1年次で修得すべき「**團**アカデミックスキル」「**團**プレゼン・ディベート論」以外の専門教育科目は、学類移行後の2年次で履修し、履修登録単位数の上限超過は保健学教務委員会で審議します。
- ・ 共通教育科目は可能な限り1年次に修得してください。導入科目及び「**團**アカデミックスキル」「**團**プレゼン・ディベート論」に未履修や単位不足があると2年次以降での修得が困難となる場合があります。

4 履修登録上限（CAP制）

各クォーターに履修登録できる科目の上限単位数は、12単位です。

ただし、共通教育科目において次の科目は、履修登録の上限には算入しません。

- (1) 集中講義として開講する授業科目
- (2) いしかわシティカレッジにおいて開講する授業科目
- (3) 放送大学において開講する授業科目
- (4) 基礎科目（統計数学A、統計数学B、物理学実験、化学実験、地学ⅠA、地学ⅠB）。ただし、総合教育部（理系）に所属する者が履修する場合に限る。

なお、専門教育科目においても履修登録の上限に算入しない科目があります。p.3p.4記載の1年次に修得が望ましい専門教育科目では、理工学域のアントレプレナーシップ論が該当します。その他、履修登録の上限に算入しない科目は、各学域・学類の履修案内・手引き・ハンドブック等で確認してください。

また、履修登録許可単位数の上限は、総合教育部では、前学期のGPAが2.7以上の場合に撤廃します。

5 外部試験による成績評価・単位認定制度

1年次のGS言語科目（英語）は、一定のスコア等の基準を満たせば、「S」で成績評価を受けることができます。また、初習言語科目及び単位を修得できなかった場合のGS言語科目（英語）は、外部試験のスコア等により単位認定を受けることができます（詳細は『共通教育科目履修案内』を確認してください）。

ただし、GS言語科目は、6科目が移行点対象科目であるため、必ず6科目以上の授業科目を履修してくだ